

審議会の運営

分野間の連携

他部会とも連携できればと思う

警察も市民活動を支援するよう、警察との連携

審議資料

まちづくり部会と他の3部会との関係を議論するうえでの関係性を整理するマトリックス資料の作成

部会の資料については、事務局でたたき台を作成先行して行われている基本的な議論を整理

審議の進め方

検討の際の視点（全体）

目指すべきまちを作るに当たり、どう戦略的に考えるのかを明示しなければならない。

検討の基本的方向性の提示。歴史を重視する、安全を重視するなど

共通の概念、環境や歴史都市といったキーワードが必要

10年という長いスパンのものと、緊急的なものをどう仕分けるか

計画には時間軸を考慮すべき。いつ誰が何をすることが明確になってくる。

検討の際の視点（個別）

中山間地域についても審議

交通というのは、人々の出会い、コミュニケーションに貢献し、生活と直結しているものとして考えるべき。

公共交通は赤字であることを前提に、どう市民の足を確保するのかを考えていくことも大切。

「都市基盤」と「交通」において、総合交通戦略に特化した議論

京都の弱み

狭い道に小さな家がありつき震災では甚大な被害が発生

アウトプットイメージ

今後目指すべき政策の姿

人々の日々の生活を見据えた物理的環境整備（ハード整備）

地域資源をどう市民、行政が活用していくのかという視点を持って審議

社会的制約の中で、実行していくことを選択する審議

京都の歴史、文化に優れたまちという特色を生かす

市民に新たな生活スタイルを提示。市民の背中を押すための計画

学問のまちとしての頭脳を産業につなげる。頭脳が流入するだけでなく、京都が頭脳を育てる、住みやすいまちであってほしい。

夏の暑さを過ごしやすいようなハード整備を検討

市民と行政の役割分担について

都市インフラの整備だけでなく、運用にも市民が関わる協働

町内会を何らかの形で行政の取組の中に

地域の人がまちづくりにかかわるための継続的に集まれる場づくり。場づくりを目標指標に

政策－施策の仮体系について

目的と手段が混在。ヒエラルキーとして整理し、重点部分を議論

「交通」政策は交通局にとどまらない